

〔Ⅲ〕 次の文を読んで、以下の問(A)～(D)に答えなさい。それぞれの問で、最も適当な語句を選び、その記号をマークしなさい。

この地図には、二つの( 1 )が見える。一つは14～10万年前に形成された直径13 kmの洞爺( 1 )で、この地図の北半分を占める洞爺湖が( 1 )湖<sup>①</sup>になっている。洞爺( 1 )に由来する外輪山はこの地図では洞爺湖温泉町の西壁に標高点232.6 mを含む列状の高まりなどわずかに見える。

この地図の陸域のほとんどを占める火山は有珠山で、2～1万年前に形成された富士山と同様のタイプの( 2 )から変化してきた。8～7千年前にはこの山頂部で大崩壊が生じた。もう一つの( 1 )の誕生である。その( 1 )の内側には数千年の休止期を経て小火山が付加されてゆく。大有珠と小有珠などはその地質と形態から( 3 )と呼ばれる。( 3 )はかつてトロイデと称されていた。有珠山はいわば「爆発( 1 )を持つ( 2 )」であって、江戸時代以降に<sup>③</sup>( 4 )や( 5 )が付加されてきた。

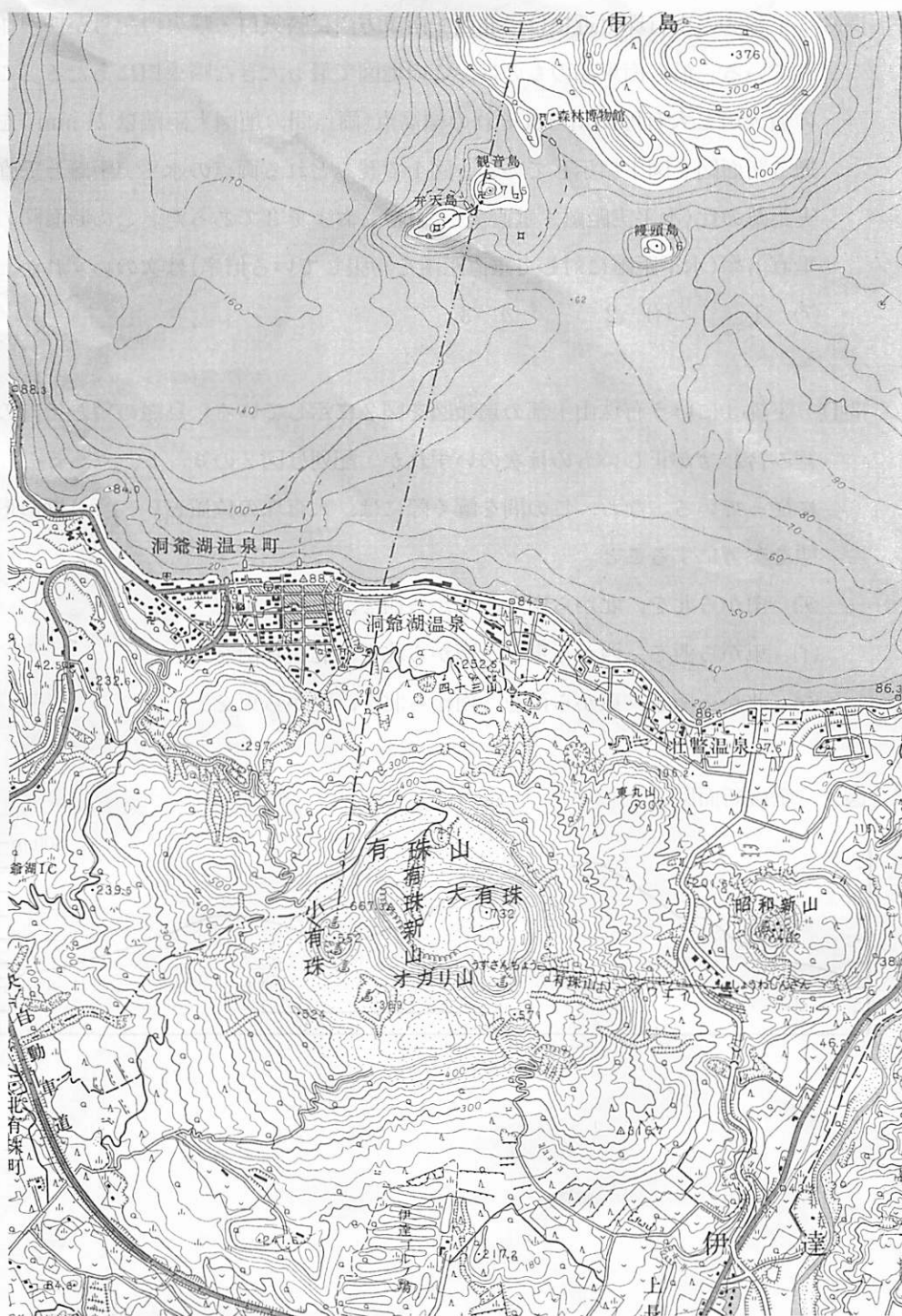
両( 1 )のいずれにも( 4 )が見られる。洞爺( 1 )のそれは中島であり、有珠山のそれは大有珠や小有珠である。( 4 )と( 5 )の概念は( 1 )の内側か外側かの位置関係を示すものではあるが、( 4 )を生み出す火山活動は( 5 )に比べてより大きな災害をもたらす可能性がある。( 5 )はかつて寄生火山と呼ばれていたが、この例として有珠山東方の昭和新山を挙げることができる。大有珠、小有珠、昭和新山にはともに明瞭な火口が認められない。

問(A) 上の文の( 1 )～( 5 )に入れるのに最も適当な語句は次のどれか。

- |                         |         |                            |          |
|-------------------------|---------|----------------------------|----------|
| (ア) 火山岩 <sup>せん</sup> 尖 | (イ) 中央丘 | (ウ) 熔岩 <sup>よう</sup> 円頂丘   | (エ) 成層火山 |
| (オ) 盾 <sup>たて</sup> 状火山 | (カ) 側火山 | (キ) 火山 <sup>さいせつ</sup> 碎屑丘 | (ク) カルデラ |

問(B) 下線①の洞爺湖内で、饅頭島東南東約1.6 kmの湖底に、矢印が入った等深線が見られるが、この深度は次のいずれか。

- (ア) 120      (イ) 140      (ウ) 160



注) この地形図は原寸大である。

問(C) 下線②の小有珠付近には、北西－南東方向に噴気口・噴火口記号が四つ並んでいる。最も南東部のものは、この地図で最も大きな噴火口にあたる。この噴火口と大有珠山頂それぞれの標高点(両点間の地図上距離は 21 mm)を通る断面図を図 1 に示している。図 1 で読みとれる両点の水平実距離と垂直実距離の比(水平実距離÷垂直実距離)はおおよそ 3 であった。この断面図の垂直倍率(水平距離に対して垂直距離を誇張している倍率)は次のいずれか。

- (ア) 1      (イ) 2      (ウ) 3

問(D) 下線③にいう有珠山上部の鳥瞰<sup>かん</sup>図を図 2 に示している。鳥瞰の望む方向の組み合わせが正しいものは次のいずれか。配列は図 2 の a, b, c, d の順に従っている。なお、この問を解く際には、大有珠の位置と( 1 )壁の形態を参考にすること。

- (ア) 南から北を, 北から南を, 東から西を, 西から東を  
 (イ) 東から西を, 西から東を, 南から北を, 北から南を  
 (ウ) 北から南を, 東から西を, 南から北を, 西から東を

図 1 垂直断面図

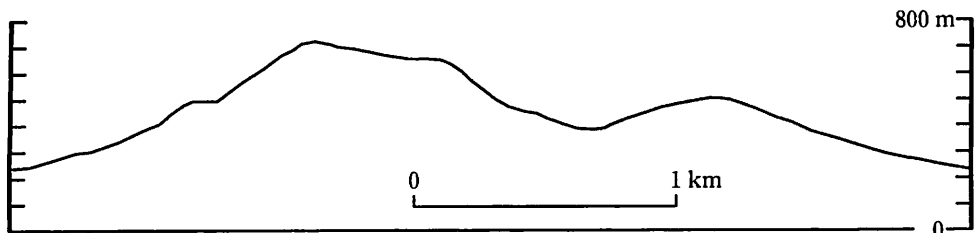


図2 有珠山上部の鳥瞰図

